

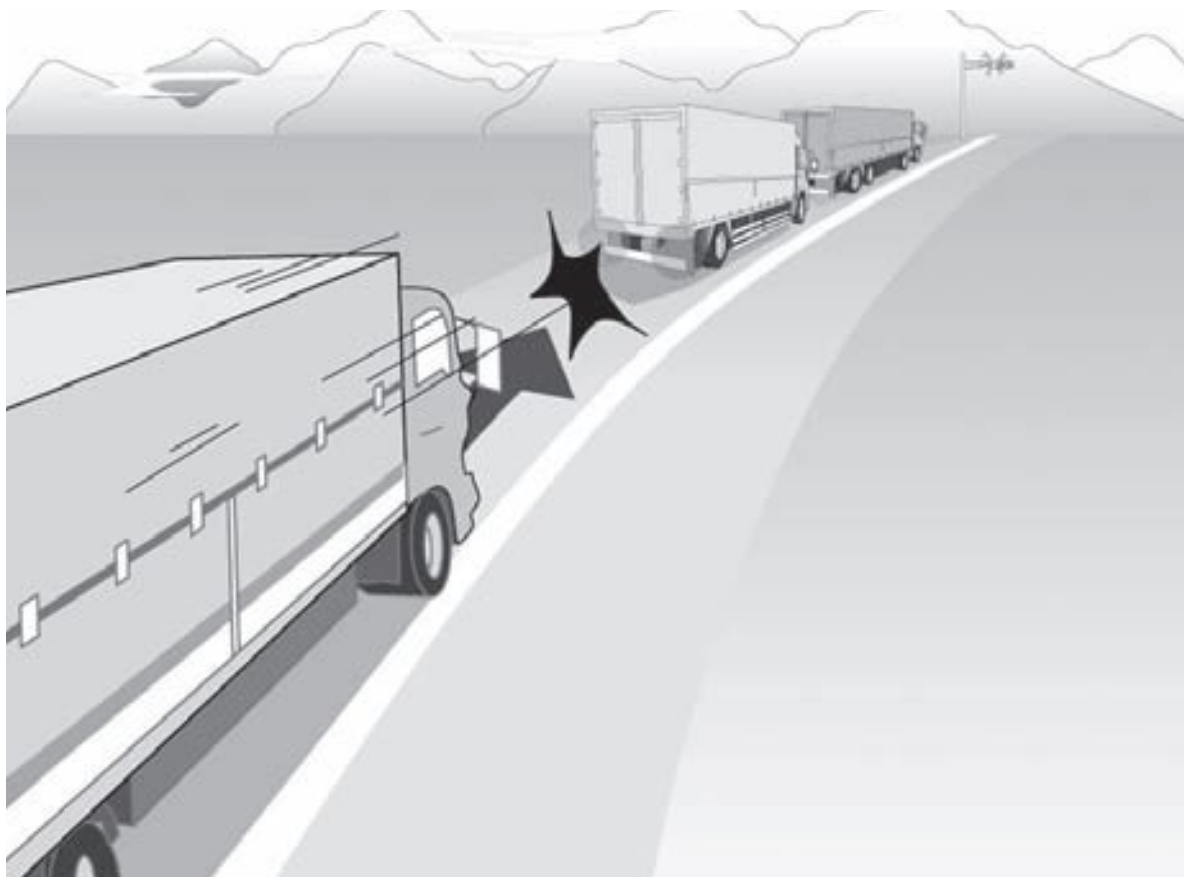
事故に
学び
安全運転に
生かす

事例研究 81

信号待ち停車中のトラックに追突

事故の概要

- 発生日時 3月23日（金） 午前4時30分頃 天候 晴れ
- 発生状況 運転者が荷卸し先に向かって早朝の国道を走行中、前方で信号待ちをしていた車に追突して相手運転者に重傷を負わせたもの。
- 事故当事者 男性55歳 相手側 男性40歳
- 事故原因 運転者は早朝の国道を荷卸し先に向かって走行していました。長距離運行も終わりに近づき、目的地まで残り数キロの地点まで来ていました。進行方向のゆるやかなカーブの先にある信号が赤色から青色に変わったのを確認し、減速せずに進行できると判断しました。その時、目の前で停止中の車に気づき、とっさにブレーキをかけましたが、間に合わずに追突してしまいました。



提供：中部交通共済協同組合

被害／損害 40歳男子後遺障害併合9級

総損害額 7,400万円

■被害概要

- ・被害者の職業 会社員（トラック運転手）
- ・被害状況 骨盤骨折をはじめ下半身に骨折多数 入院1年2ヶ月・通院4年

■損害額内容

・治療費用	2,950万円
・休業損害	1,400万円
・逸失利益	1,680万円
・慰謝料	1,090万円
・弁護士費用	280万円
計	7,400万円

■運転者について

運転免許取り消しの行政処分を受けました。

被害者について

被害者は妊娠8ヶ月の妻と5歳の男の子の3人家族で、まもなく生まれる新しい家族の誕生を待ちわびながら、幸せな生活を送っていました。

被害者は配送業務に従事しており、この日はコンビニ配送のため、4t車を配送先へと走らせていました。事故現場となった信号交差点で前を走る大型トラックに追従して停車した数分後、右のドアミラーに急接近するトラックを認め、身構えると同時に衝撃と激痛を感じ、なにもできぬまま意識が遠のいていったそうです。被害者の運転するトラックは追突された反動で前へ押し出され、キャビンは前車と衝突して半分につぶれてしまいました。車室内で挟まれた被害者はピクリとも動かず、道路にしたたる大量の血は周囲の人に死を連想させました。救急搬送の直後、奥さんは急いで身内の方々を集めるようにと医師から言われていたそうです。死の淵をさまよい、1年2ヶ月の入院中に8度の手術に耐え、通院すること4年に及びましたが、右足と足指が粉碎骨折により短くなり、リハビリを続けた膝や足首、足指の関節も機能障害を残したまま、元の状態には戻りませんでした。

この事故のために歩くことも不自由になり、仕事を続けることができなくなってしまいました。家族の支えなしでは生活にも支障をきたし、思い悩む日々を今でも過ごし続けているのです。

この事故から学ぶ事

運転者は、眠気や疲れをそれほど感じていませんでした。しかし実際は、目を見開いてはいるものの、疲れにより注意力が著しく低下している覚低走行の状態になっていました。覚低走行に陥ったドライバーは前方の車が走行しているのか停止しているのかを直近になるまで判断できません。この事故では停止していることに気がついた時にはすでに遅く、急ブレーキを踏むと同時に追突してしまいました。今回の事故のようにならないためには、それほど疲れを感じていなかったとしても一定時間ごとに休憩を取り、疲労回復に努めるべきだったのです。疲れを自覚せず、休憩を先延ばしするうちに注意力が低下して取り返しのつかない事故を起こしてしまうこともあるのです。

長時間の連続での運転は、注意力が低下し「見ているようで見ていない」という状態になることがあります。そうならないために早め早めの休憩を計画的にとりましょう。